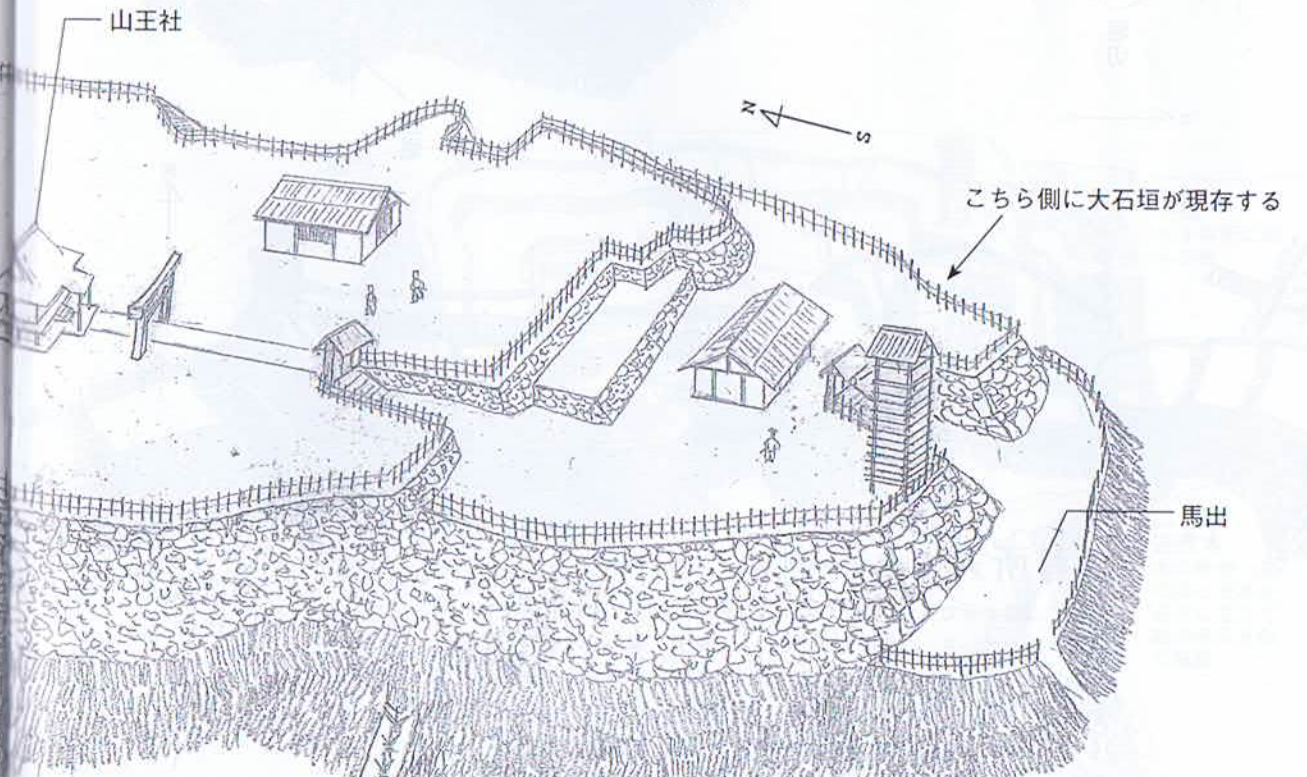
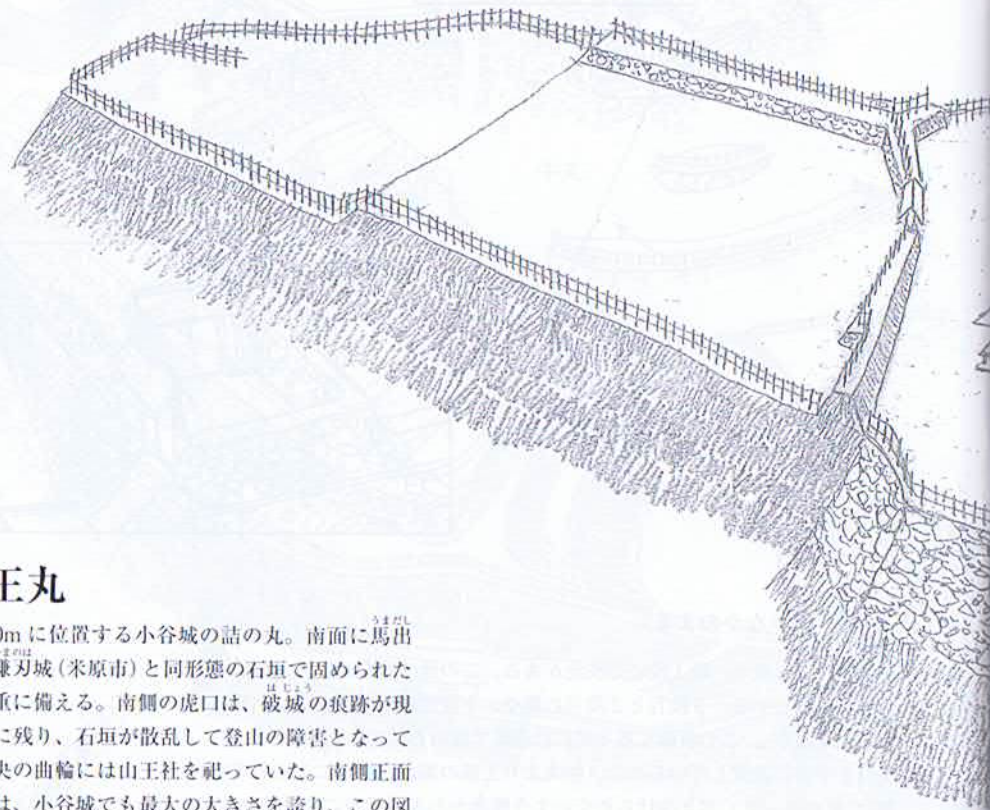


### ⑤六坊

浅井氏領国内にある寺院の出張所が置かれた曲輪と伝えている。削平地が南北に5、6段連なる。西側には腰曲輪が確認でき、図にはないが東側には堅堀数本が掘られている。また、南側の土段には石垣が見られる。



### ⑥山王丸

標高約400mに位置する小谷城の詰の丸。南面に馬出を配し、鎌刃城(米原市)と同形態の石垣で固められた虎口を二重に備える。南側の虎口は、破城の痕跡が現在も明瞭に残り、石垣が散乱して登山の障害となっている。中央の曲輪には山王社を祀っていた。南側正面石垣の石は、小谷城でも最大の大きさを誇り、この図の裏に当たる東斜面には、今も大石垣が残っている。



# 小谷山をトレッキング!

浅井家の城が築かれた小谷山は、V字に伸びる二つの大きな尾根と、その結節点に位置する大嶽から成る。本丸などのある東側の尾根は「長光山」、西側の尾根は「尾崎山」といい、この二つの出会うところに聳えるのが、最高所である標高495mの「大嶽」。どちらの尾根からも、大嶽への上りはちょっと険しい道だ。

遠望する小谷山の山容はやさしく、難攻不落の山城が築かれていたことは想像し難いが、山に足を踏み入れると、大きな堀や石垣など、戦国時代の山城の様相を目の当たりにできる。

西南の山裾を斜めに国道365号が走り、登山にはこちらからの取り付きが便利だ。ここでは、小谷山トレッキングのルートをおおきく3つのコースに分けて紹介しよう。

### ※トレッキング時の注意

- ・クマが出没することがあります。
- ・山の上にトイレはありません。
- ・山歩きに適した服装で。
- ・遺構や植物を大切に。



## 清水谷コース

三つの大きな尾根にはさまれた清水谷を歩くコースは、小谷城戦国歴史資料館から御屋敷跡までのゆるやかな坂道が約1km、そこから六坊までの約900m（水平距離）は細い急坂になっている。浅井長政の一家や家臣団が暮らした場所がしのばれる遺構が谷道の両側に点在する。本来は「しよすだに」と呼んでいたが、浅井亮政が清水寺の信者だったので「きよみすだに」と改称したと、地元には伝わっている。

### 虎ヶ谷道

清水谷から番所跡へ登る道。信長軍が浅井攻めをおこなったとき、二番手の攻撃陣がここから攻めた。両側には曲輪が多く、他の谷に比べて防御がしっかりしている。



### 御屋敷跡

徳昌寺のすぐ上、ゆるやかな坂のいちばん奥に杉林が広がる平坦地が現れる。広大な屋敷で、浅井三代の当主や三姉妹たちは、日常ここで生活していたと思われる。ここから急な坂道に変わり、右手の急斜面に何本もの竖堀が現れる。



### 徳昌(勝)寺跡

浅井亮政が、山を隔てて北の下山田にあった寺を清水谷に移し、浅井家の菩提寺とした。小谷落城後は、秀吉によって長浜の町に移された。現在の徳勝寺(長浜市平方町)には浅井三代の墓がある。



### 土佐屋敷跡(大野木屋敷跡)

大野木土佐守の屋敷跡。西側と谷側に2段の石垣が造られている。ここからしばらく登ると六坊への尾根に出る。



### 三田村屋敷跡

姉川に近い三田村(長浜市三田町)に居館を持った家臣の屋敷跡。ここにも石垣が確認できる。土佐屋敷跡とともに、信長に対抗するための陣地の可能性も。



### 山城屋敷跡

浅井氏の一族浅井山城守の屋敷跡。浅井山城守は亮政の子で、幼名を虎夜叉という。



### 遠藤屋敷跡

遠藤直経(1531~1570)は、姉川の合戦で信長の首を取るべく、単身敵の陣深く乗り込んだ勇将。浅井方の敗北が濃厚になったとき、織田の武將を装って信長の本陣近くまで迫ったが、あと一歩で討ち取られた。清水谷道の左手に屋敷の土塁が残っている。



### 小谷城戦国歴史資料館

戦国大名浅井氏と小谷城をテーマとする資料館。詳しくは40ページで案内。

